

# 市仏連会報

発行所  
 横浜市中区大平町96  
 光明山西有寺内  
 横浜市仏教連合会  
 電話 045 (661) 0166

## 年頭の挨拶

会長 柳下隆侃

会長に就任して二度目の新春を迎え、皆様方の御健康と、一層のご活躍をお祈り申し上げます。

去る十二月二日東京プリンスホテルに於て全日本仏教婦人連盟理事長山本スギ氏の傘寿の祝賀会がありました。赤いドレスに化粧をされ恰幅、色艶共に若々しく、終始にこやかに挨拶されて、意欲的、活動的な姿に接し、若い私達が老けこんではいけないと、つくづく感じた次第であります。

扱て昨年は墓地対策委員長の佐藤寿応僧正と共に多くの墓地問題のうち特に久保山共同墓地の問題を中心に取り組んでまいりました。横浜市役所に於ても積極的に協力と努力をしていただいております。併し乍ら難題が沢山あり、これが解決にはまだかなり日時を要するものと存じます。

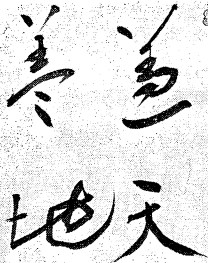
次に税務の問題は各寺院に直接関係を持つものであり、全日本仏教会に於ても税務委員会にて鋭意研究対策に活動されておりますが横浜市に於ても税務所の立ち入り調査、税務の見直し勧告等の報告を再三耳に致しております。元来私達は税務計理にうとく、多くの寺院ではこの税金問題に頭を痛めていられることと思えます。今後年々きびしくなるこの問題には市仏の税務委員長山本芳昭僧正を中

心に対応を計り、皆様のお役に立つ様極力努力を傾注したいと存じます。

扱て本年は政治的にも、経済的にも暗い影が色濃くなってまいりました。此の時こそ私達は倫理道徳の高揚を計り、お互が脚下照顧しつつ自我を捨て、世人に指弾されることのない様努め、相互礼拝大衆世界に向って精進しようではありませんか。

蓋 天  
 蓋 地

市仏連名誉会長  
 大本山総持寺 貫主  
 梅田 信隆



三和園主 後園

昨年十一月二十五日大本山総持寺貫主につかれ同時に本会名誉会長も御承知いただいた「梅田信隆禪師」について御紹介申し上げます。

梅田禪師は、福岡県の東林寺御住職であられました。特に印度哲学を御研究なされ、九州大学の大学院の助手もお務めなされました。前貫主乙川禪師さまとは、福岡の旧制中学から駒沢大学まで机

## 新名誉会長を迎えて

大本山総持寺 貫主

梅田 信隆 禪師

ばれておるようです。昨年十二月に市仏連としてお願いかたがた御挨拶に役員一同参上いたしました。非常に明るく、そして親近感のもてる禪師さまのように拝察申し上げます。

きつと市仏連にも何かとお力ぞえただけのものではないかと楽しみにして帰宅いたしました。

梅田禪師さまは、特に人間教育については、熱心であり今日の教

を同じくして勉強をなされたよしみから、ぜひとも後を頼むということ、ふるさとの九州を後にして本山の貫主になられたとのことであります。

一番つらかったのは、お孫さんと別れるのだとおっしゃっておられました。非常に研究熱心で謹勉家であられ、山内においても修行僧と一緒に坐禅を組むのが楽しみと言われております。若い修行僧の間からすばらしい禪師さまと喜

育は学問のみ優先で、点教の有無で人を差別している。

しかし、人間は生れつき環境が違うのだから、もともと差別することはできない。人間の価値はみな一緒である。それを教育で差別するから若いものは、お金で生命を粗末にしている。お金で身の回りが快適でも生命を粗末にしては幸せにはなれないと申されました。

## 第八回涅槃会要綱

- 一、日時 昭和五十八年二月十四日(月・友)
  - 一、場所 安禅院・円満寺 西区久保町一三九 電話(二三一)四三八三
  - 一、交通 相鉄線西横浜駅下車徒歩七分・市バス横浜駅東口より11系で藤樹下車徒歩七分
  - 一、講演 「釈尊の涅槃」 講師 室生貞信大僧正 天台宗布教師
  - 一、会費 無料・御祝儀は受けます。
- ◎ 随喜御寺院は黒略衣着用のこと。

# 中国万里の長城見学記

副会長 佐藤 泰心

昭和五十七年四月八日出発の日、綱宗で行はれた中国旅行に参加して北京に参り翌九日万里の長城の一角を見学致しました。一昨年の折は四月六日の日曜日だったので大変な混みようで千米位手前でバスを降り歩いて行ったのですが今度はその様なこともなく長城の内側まで車で参り、その一角に登りました。長城は三人立てば守れるようになって十二人で一角の守備が出来るように思はれます。でも途中はなかなか急な坂で此の様な長城を五千キロ以上作ったなどは考へられないものでした。見物人は大多数が中国人で、私達の外に欧州人の一団があっただけでした。前回は参った時間違へた便所はどろろになっているかと思ひながら用達しに参りますと昔の便所は使用されずその下の方に半分位の小さい便所が出来ていました。男女別の入口があり、その入口には男用、女用と書いてあり家内が女用に入りましたので聞いて見ると一般東京方面の便所と変わりなくドアもちゃんとしていたとの事です。男用は大が二つ、小が四人位立って出来るようになっていました。一昨年の便所は一階の茶色の煉瓦の壁の所に横二尺、縦一尺位の白いペンキで塗った所に男用と黒いペンキで書いてあったのを見てすぐ側の階段を女の人達と一緒に登りま

した。二階の右方に通路がありましてそちらへ廻ると高さ二尺位の扉の内側で女の人がこちを向いてズボンを下さうとしているではありませんか、びっくりして下に降りさっきの男用の字を見ますとその向い文字版の横に茶色の壁の右方に黒い字で「印がついていました。そっちへ行くと、男便所があり多勢の男性が用を達してました。何だっけ女用の入口にあんなことを書いていたのか、さっぱりわかりません。でも間違へたのは私ばかりでした。

## 文化講演を開催して

恒例になってまいりました文化講演会も本年も釈尊奉賛会と市仏連の共催によって立派に催すことができました。十月二十三日暑くもなく寒くもない好時節、会場の西有寺本堂は笑いのうずでいっぱいでした。と申すのも講師に三遊亭栞楽さんを招いて、笑いと人生という演題で話しが始めたからだ。さすが話家だけあって、話は実におもしろい。しかしその内に教えられる真理があつて大変有意義であつた。その中の一つをあげてみると「皆さんは頭を使いそして趣味を持つ事が一生楽しく生きられます。ただぼうと生きていて今日では昭和何年かな? 等と

通じれば五十才六十才の人も十才二十才の人と仲よく楽しめます。例えば俳句等もいいですね。加賀の千代さんはこんな歌を作りました。あさがおに つるべとられてもらい水 等というのは実に女の細さをうたつてますね。その千代さんは、早く夫を失つてこんな歌も作りました。起きて見つ寝て見つカヤの広さかな。実に夫のいなさみしさをこまやかに表現しています。すると近所の若者が、お千代さんカヤが広がりや入るかな等とやっています。実に楽しいですね。皆さんもやつて見て下さいな。最初はへたでいいんです。雪が降つて来たら、初雪や一番目だつインド人等でもいいんですよ。そのうち、初雪やカワラの魂もうす化粧等と出来るようになります。こうして何でもいいですから趣味を持って楽しく生きる事です。



まだまだ例題を上げて人生は笑いながら楽しく生きる方法を話して下さいます。

## 墓地問題報告

佐藤 寿 応

一、六月二十九日 墓地問題打合せ 西有寺 柳下会長、佐藤副会長、森山副会長、玄野事務局長、佐藤委員長、久保山代表、円満寺西郊師、根岸代表、大円寺佐藤師、上大岡代表、玉泉寺吉本師、市役所係員四人集り、市役所から現地調査の報告と各墓地の問題点を説明してもらい各代表の質問があり、夫々の墓地の全容が明かになり、有益であつた。

二、七月二十八日 関係寺院にアンケート発送 先の打合せの際、アンケートを取る提案があつたので、①無償返却を要する、②現状維持のアンケートを取つた結果、最終的には二寺だけが返還を要求し、残りは全部現状維持を望んでいることが明かになった。

## 理事会常務理事会の開催

東福寺

三、九月一日 打合せ 久成寺 先のアンケートに基き市長への要望書提出について、柳下会長、佐藤副会長、玄野事務局長、佐藤が協議をして要望書を作成した。

四、九月三日 要望書提出 柳下会長、佐藤が市役所に行き市長あて要望書を提出し、その内容を説明し種々協議をした。

五、十一月九日 東福寺 久保山墓地問題協議会

久保山墓地は一番問題が多いので関係のお寺さんに集つてもらい市役所係員から説明をきくと共に共通の問題について話し合つた。しかし市役所として法律上その他の点で返還するか現状維持にするかまだままだまではないので結論が出せなかつた。結局、市役所の方針がまきり次第寺院側の対応をきめることになった。

年の瀬もせまつた十二月十三日市仏連理事会及び常務理事会を開催した。出席率もよく会長挨拶の後、物故者に黙とうを全員でささげ、以後活発な意見を交したが、その中でも、奉賛会のあり方、税務問題、墓地問題等各方面に渡つて全員熱心に研究にとりくんだ。そして最後に明年度の新役員を選考する件について、事務局より発表し、全員で現役員に留任してもらいたいとの結論になり、役員一同御尊位の御希望にそぐべく努力をすることにした。その後、懇親会に移りなごやかに散会した。

# 頌 春

祈 高 堂 万 福

横浜市仏教連合会会長

観音寺住職

柳 下 隆 侃

港北区篠原町二七七七  
電話 四三一―一四三四

横浜市釈尊奉賛会会長

宇 野 忠 夫

金沢区金沢町一  
電話 七〇一―九三八三

横浜市仏教連合会副会長  
中区仏教会長

大円寺住職

佐 藤 泰 心

中区大平町九四  
〒二三一 電六四一―四九三三

横浜市仏教連合会副会長

福聚寺住職

森 山 正 城

保土ヶ谷区岩井町五六  
電話 七五一―五五九四

横浜市仏教連合会専務理事

長昌寺副住職

玄 野 孝 善

旭区さちが丘五九九  
電話 三九一―一三七九

横浜市仏教連合会会計

弘聖寺住職

内 野 公 雄

緑区台村五四九  
電話 九三一―二五一二

日蓮宗々会議員

大蓮寺住職

田 島 海 義

保土ヶ谷区神戸町九八  
電話 三三一―〇一三五

港北区仏教会長

龍松寺住職

近 藤 憲 雄

港北区太尾町一〇二三  
電話 五三一―六〇三〇

保土ヶ谷・旭区仏教会長

三仏寺住職

吉 川 哲 雄

旭区本村町七六  
〒二四一 電三九一―一三〇七

西区仏教会会長

墓地専門委員会委員長

久成寺住職

佐 藤 壽 応

西区平沼一―二〇―二六  
電話 三三一―七六七六

神奈川区仏教会

会長 山 本 芳 昭

副会長 黒 多 良 弘

副会長 板 垣 禎 一

神奈川区子安通三遍照院中  
電話 四四一―〇八二七

横浜市仏教連合会顧問

昇天山金龍禅院

住職 志村 慎吾

〒二三六 金沢区六浦町四四一二  
電話七〇一八八二三

横浜市仏教連合会参与

新善光寺住職

福 永 隆 昭

〒二三二 南区三春台一三三  
電話二三一五七五四

横浜市仏教連合会参与

西有寺住職

横 山 敏 明

〒二三一 中区大平町九六  
電話六六一〇一六六

神奈川区仏教会会長

遍照院住職

山 本 芳 昭

〒二三二 神奈川区子安通三一三八二  
電話四四一〇八二七

戸塚区仏教会会長

雲林寺住職

北 見 定 賢

〒244 戸塚区矢部町七八八  
電話八六一一三二四

金沢区仏教会会長

真言律宗

別格本山 称名寺住職

須 方 智 澄

〒二二一 金沢区金沢町二二二  
電話七〇一九五七三

南・港南区仏教会長

勝国寺住職

実 浄 文 英

〒二二二 南区蒔田町九三二  
電話七三一二五二四

鶴見区仏教会会長

宝蔵院住職

国 田 隆 念

〒二二二 鶴見区馬場四一七一五  
電話五七一二二一四

南・港南区仏教会副会長

常清寺住職

片 山 宣 英

〒二二一 南区清水ヶ丘二三一  
電話二三一八六六二

横浜市積尊奉賛会事務局長

東林寺住職

瀧 田 東 潤

〒二二二 港北区篠原町一二五二  
電話四二一〇三三二

横浜市積尊奉賛会

事務局次長

藤 江 馨 山

〒240 保土ヶ谷区岩井町三二二  
電話七三一七九六

横浜市積尊奉賛会 会計

東照寺住職

程 木 徳 明

〒223 港北区綱島西一の十三の十五  
電話五三一七八三

### 支部だより

#### 保土ヶ谷・旭区仏教会

「天徳院落慶晋山上堂結成」

十一月三日

相鉄線天王町駅と国鉄保土ヶ谷駅との中間に神戸山天徳院がある。この寺最初は臨済宗だったそうだが、現在は曹洞宗で現住職で二十八世と聞いている。

十一月三日好天にめぐまれ旭明和尚の晋山結成上堂と本堂庫裏の落慶法要が厳修された。当山の歴史は古く四六〇年程前に建立され二十六世に伽藍も良くとのつたが、大平洋戦争で全て焼出し、この度本堂庫裏がすばらしく再建された。当日は百名の随喜僧と三百名以上の善男善女が参加し、午前九時山門到着と同時に法要が四時間半に渡って行なわれ、当保土ヶ谷旭区仏教会では会長が祝辞をのべた。天徳院の今後の益々の御発展を祈る。



#### 「仏跡参拝旅行の実施」

十一月九日

恒例の秋の仏跡参拝旅行を本年も保土ヶ谷旭区の御寺院が協力し合って見事に達成できた。秋は紅葉を見て、しかも「智水」即ち、お酒でも少々くみかわし、その上仏教徒としてのおまいりと思ひ真言宗の高尾山薬王院と時宗の無量光寺を計画、無量光寺では御住職の厚い接待のものと寺縁等の話をいただき、一方薬王院では役僧の法話をいただき、そこで参加者約三百名が一同に精心料理に舌つつみをうち霊山の空気をいっぱいすって帰途についた。

実に参加者から喜ばれ良い思い出になった。当仏教会では春と秋宗派をのりこえて各寺院の見事な協力での旅行を実施している。

#### 「成道会」

十二月八日

当仏教会では釈尊お悟りの日を記念して、区内各寺院を会場持廻りにして成道会法要と記念講演を実施している。本年は旭区白根町の正円寺様を会場に正円寺御住職を導師のもとに約二百名の善男善女がおまいりをし、釈尊の成道老師の記念講演「法のともしび」があり皆感動の気持ちの内終了した。その後、三仏寺吉川哲雄催年度の事業決算報告や会則の一部変更に関して承認を得、待望の「ケンチン」で冷えた体をあたため帰途についた。

#### 金沢区仏教会

- ◎五月三十一日 浩宮徳仁親王殿下称名寺及び金沢文庫御見学。
- ◎六月十一日 釈尊奉讃会、仏教会共催で、山梨方面仏跡参拝。
- ◎十一月六日 伝心寺に於いて、交通事故物故者追悼法要、並び

に交通安全大般若転読祈願厳修  
◎十一月二十七日 年末調整税務研修会開催於称名寺。

#### 港北区仏教会

新年明けまして、お目出度うございます。各位御承知のように、県仏教会副会長、市仏教会参与、港北区仏教会長等、要職に在りました。柴田敏夫師が、客年十月三十日午後急病のため示寂されました。師は昭和二十五年四月よりその日迄、港北区仏教会長として、教化面税務面等、万事一身にお引受け下され、会員一同その指導に従うのみで、一切の事務処理をお願いし申して居りました。真に申し訳けなく茲に改めて、永年の御苦勞に対し感謝と、弔意を表する次第です。

ところで、その跡継ぎを措償にとのこととなり、他に適任者も居られる事故堅く辞退したのですが、何としても受けるようにとの事です。素より浅学非才その器ではございませんが、お掛けする事に致しました。幸にも区内には、市仏連合会長柳下隆侃師、市釈尊奉讃会事務局長滝田東潤師、等市仏教界要職の先輩諸師も居られ、御指導と御援助を得て任期満了まで、席を汚す所存です。諸先輩各位の御鞭撻を、お願い申し上げます。さて、今年は税務攻勢のため税務署係官の講習会、説明会等を三回開催し、更に神奈川税務署管内神奈川、緑、港北、各仏教会の関係者が、昭和五十六年度宗教法人の源泉税見直し申告に係る協議等、本来の宗教活動は出来る。例年の区遺族会の合同慰霊祭の奉仕程度でしたが、新春と共に新組織に依るスタッフの協力を得て活動出来るものと期待して居ります。

ので宜しく願います。  
南・港南区仏教会  
皆様、新年あけましておめでと  
うございます。

当仏教会におきましては、地域社会とのつながりを大切に、仏教を通じた布教交流、並に会員各位の研鑽、親睦につとめる為、精進していったらしては、釈尊降誕会に於きましては「花祭り」として各宗持ち廻り会場寺院を中心に法要を行い、又それに因みまして近隣住民、子供達に呼びかけ布教法話を行っております。厳肅の中にも参加者がお気軽に出席でき、納得をいただけます集いにとつとめております。

又、各寺院恒例行事の間を見て、会員各宗寺院の御本山に拝登、お参りをいたし、お互いが各宗派の現況を学び、理解し合い、それを法縁とし会員同志の研鑽親睦を深め、今後の当仏教会の発展に寄りたいと願っているものであります。因みに、高野山金剛峯寺、身延山久遠寺、藤沢の清浄光寺(遊行寺)、越前永平寺等へ行っております。今後も引き続き行いたいと思っております。

戸塚区仏教会  
一、釈尊誕生花まつり  
既報の通り、四月八日午後二時より矢部町雲林寺にて挙行。付近の子供三百名余り参集、供物菓子玩具類不足の状況であった。

二、戦没者慰霊祭  
恒例の戸塚区戦没者慰霊祭は四月二五日午前十時より、区役所慰霊碑前にて行はれ、神官と共に奉仕供養す。

三、盆会流灯会  
八月十六日盆開けの日、観光協会清風会等各種団体共催の許に開催、初め天候は思わしくなく、鼓笛隊の市中行進等一部の行事の制限はあったものの、流灯実施の夕刻には雨も上り、参加者三万人余り、盛大裡に終了す。戸塚区仏教会より二十数名参加。

#### 討 報

本会名誉会長 乙川瑾英老師  
大本山総持寺独住第二十世、「仏海真光禪師」本会名誉会長、乙川瑾英老師、八十才は去年十二月六日遷化なされました。

本会副会長 柴田敏夫老師  
師は去年十月三十日、心筋梗塞のため遷化せられました。  
本会の重職におられた両ご老師にたいし、感謝と哀悼の意を表します。

南・港南仏教会々長  
實 浄 文 英

# 亥の歳の新年に想うこと

## 「暮直去」

志 村 慎 吾

皆さんあけましておめでとございませう。

本会の会長職を退かせていただきましてから満二年になるうとしています。只今では小庵裡裏に引籠って専ら晴耕雨読の閑日月を送っておる毎日でございます。

禪宗の教えに「心頭無事なれば一床寛し」、つまり、心のなかが平安無事で、何んの心配ごととも執着するところもなければ、たとえ壺中に在っても心は落着いて安らぎを得ることが出来る、人々お互に無事平安を求め望んで止まないものであると云うことです。

皆さん今年の十二支は亥に当り猪の歳になります。猪と申しますと私共はずぐに、「猪突猛進」と云う言葉が連想されて参ります。

「今年こそ猪突の勢いで猛ましく前進あるのみだ」などと元旦の朝一年の計を企画したものです。

ところで、この「猪突猛進」の言葉に、似て非なるものに「暮直去」(真すぐに進め)と云う禪語があります。私は今年の歳旦に当ってこの「暮直去」の三字の意味、するものをしみじみ感じとって行じて参りたいと存じます。

「暮直去」とはどなた様でもご存知の事と思いますが、これは無門関と云う語録の三十一則に載っており、趙州勘破のお話の中に

出て参ります茶店の老婆の言はれた言葉です。趙州勘破の公案は禅門の公案中では難透の中の難関の公案として古くから云はれておりまして、チツトヤソツトで透る閑所ではございませぬ。私共は、亥の歳を迎へる年頭に当って老婆の示す「暮直去」から真の禅僧として、真の仏教徒として、もう一度とくと日常底を振り掃り深く反省をして見たいと思ふものであります。

「それでいいのか?」と虚心に自己を深く掘り下げて見たいものです。在家の或る作家は、「雲水に帰れ!!」「釈尊の精神に帰れ!!」等と僧侶の世界に向って大声をあげて叫んでいます。

中国、古代の五台山でなくとも現在、只今、この目前に生きた老婆子が私共に朝な夕なに「暮直去」と呼びかけ、点検しているかの様に受けとられます。現在の老婆子は「立派なお婆なのに、何んと云うぶざまなことよ」「好箇の師僧又恁麼にし去る」と冷笑を浴びせているかに想えます。

真の修行者に、真の仏教徒にとつて五台山への道とは一体どこに在るでしょう。五台山への道は禅の道であり根源的な真理へ通ずる大道であり、自己、すなわち、真

我への道であると思うのであります。

道元禅師様は、「学道の人若し悟り得ても、今は至極と思つて行道を罷ることなかれ、道は無窮なりさりとてなほ行道すべし」とお示しになられております。あれを想ひこれを想うとき、亥の歳の年頭に当り「暮直去」を深く心にとめて精進をつづけたいものと想います。(金沢区金竜院住職)

### 鶴見区仏教会

十月五日、神奈川県慰霊堂例祭法要に参加しました。

宗派の異なる住職が一堂に会して法要することは、經典の誦誦方法も違うであろうし、一緒に練習の機会もなく、まったくの本番であるため、中々難かしいものと思われる。

特に自分の宗派の檀信徒だけが集まっているのなら容易であるが、各宗派等、多種の信仰団体が

集まる場合、一番気を付けなければならぬのではなからうか。

鶴見区仏教会では、昭和四十六年より統一した「おつとめ次第」を作成して「花まつり法要」等に用いて居り、今回の県慰霊堂例祭法要には、さすが意気の合った法要をつとめることが出来たと思う。法要に続いてご詠歌奉詠も行われ壮厳に式典を厳修した。

### 支部 新役員紹介

#### 南・港南区仏教会

会長 実浄文英南 時田町九三二  
副会長 片山宣英南 清水ケ丘三三  
会 計 小西日真南 太田一106  
常務理事 山本聖善港 大久保二134  
監 事 練惠南 中里四113  
監 事 吉本十三南 中村町一116  
監 事 後藤泰心港 上大岡一42  
保土ケ谷・旭区仏教会  
会 長 吉川哲雄旭 本村町七六  
副会長 楠 正舜旭 白根一三七五  
副会長 安井寛明(保和田二一八)

式に参列  
県慰霊堂奉仕 戸塚  
区仏教会  
本会参与港北区仏教会  
会長 柴田敏夫 老師遷化 本葬に参列  
三役会の開催於西區

### 事務日誌

57・11・3	天徳院本堂落慶普山	57・12・9	円満寺
57・10・23	賛会と共に催於西有寺	57・12・13	理事会の開催
57・10・5	員会の開催於西有寺	57・12・15	本会名譽会長総持寺貫主に挨拶参上
57・9・28	常務理事奉養會役	57・11・19	本会参与港北区仏教会
57・9・13	三役会の開催 於中区西有寺	57・11・5	式に参列
57・9・1	三役会の開催 於西區久成寺	57・11・9	三役会の開催於西有寺
57・8・5	県慰霊堂奉仕 保土ケ谷・旭区仏教会	57・12・4	三役会の開催於西區

### 編集後記

○新春を迎へ任期最後の編集に役員一同努力をした。

○昨年は円楽さんを講師に迎え、笑いの内に無事文化講演を終了した。今回は特に各区仏教会長老師の協力で僧侶の参加が多くなったことは喜ばしいがもっと多くの僧侶の参加を望みたい。

○昨年は本会参与の柴田老師の御遷化は悲しく残念に思う。一方若い僧の誕生もあつて今後の活動を望む。

○本会名譽会長大本山総持寺貫主に乙川老師から梅田老師に変わった。九州の高僧であられるが今後本会活動にも力を貸していただけることを期待する次第だ。

○本年の涅槃會は西區が当番にあたり円満寺を会場に開催を予定している。西區はもとより各区の寺院の協力をお願いする。

○新年にあたり御尊堂の益々の御健勝を祈念する。

庶務 玄野孝善旭 さらが丘五九  
庶務 細川秀純保 今井町一〇八  
会 計 山口泰谿旭 川井本町八六  
監 査 新井宝全旭 上川井二一四  
監 査 柴 良全(保月見台二九一)  
港北区仏教会

会 長 近藤憲雄 太尾一〇二三  
副会長 竜田東潤 篠原一二五二  
事務局長 程木徳明 綱島西一13  
緑区仏教会

会 長 安田一雄 十日市場町81  
副会長 清原春香 北八朔一八〇  
庶務 渡辺慧光 鉄町一七八三  
会 計 大岡一英 長津田一六七二  
事務局 内野公雄 台村町五四九